

令和7年度

追跡評価結果

令和8年3月

広島県立総合技術研究所

目 次

| | | |
|---|------------------|---|
| 1 | 研究課題の管理（振返り）について | 1 |
| 2 | 追跡評価について | |
| | （1）評価対象課題 | 1 |
| | （2）評価方法 | 1 |
| | （3）評価結果 | 1 |
| 3 | 参考資料 | |
| | （1）追跡評価の基準 | 2 |

1 研究課題の管理（振返り）について

広島県立総合技術研究所が実施した課題解決研究（一般型）について、研究開発・技術支援の質的向上を図るため、「広島県立総合技術研究所研究課題評価マニュアル（令和6年8月改正）」（以下、「マニュアル」という。）に基づき、追跡評価を実施した。

2 追跡評価について

（1）評価対象課題

令和3年度に終了した課題解決研究（一般型）：2課題

（2）評価方法

課題を実施したセンターにおいて、当初目標と照らし、事後評価以降の課題解決のアウトプットを「達成／未達成」、アウトカム（波及効果）を「有／無」で自己評価するとともに、今後の研究開発・技術支援に反映すべき点等について自己検証を行い、広島県立総合技術研究所の運営会議内で承認する。

（3）評価結果

【結果一覧】

| 番号 | 研究課題名 | センター名 | 研究期間 | 課題解決のアウトプット※1 (成果移転) | アウトカム※2 (波及効果) |
|----|----------------------|-------|--------|-------------------------|-------------------|
| 1 | 高温登熟障害に強い多収穫酒造好適米の開発 | 食品 | H27-R3 | 達成 | 有 |
| 2 | 体外受精胚の品質評価システムの開発 | 西部 | H31-R3 | 未達成 | 無 |

《センター名》食品：食品工業技術センター、畜産：畜産技術センター、

※1：達成／未達成の中から評価する。 ※2：有／無を評価する。

【評価概要】

『高温登熟障害に強い多収穫酒造好適米の開発』では、「気温の高温化」に対し、早期に着目し研究に着手できたことで、昨今の猛暑による障害に対する有効な品種として奨励品種に設定され、県内事業者による生産が拡大している。また、開発した新品種を使用した日本酒が商品化された他、商品ラベルまたは商品名に新品種の名称である「萌えいぶき」が表記され、新ブランドの立ち上げに繋がっており成果が創出されていることから、アウトプットの目標達成及びアウトカムを有するという評価となった。

『体外受精胚の品質評価システムの開発』では、開発したプログラムをもとに、広報活動を実施していたが、競争技術による経時的变化を評価する手法が主流となっているため、本技術の普及には至らず、アウトプットは目標未達成、アウトカムは無いという評価となった。

ただし、研究で得られた成果は、後の研究課題である、経時的な評価による胚発育過程データの蓄積・分析に活用されており、現在、体外の人工受精胚による子牛の生産性を高める研究を実施しており、県内の肉牛生産量増大に貢献するための研究を継続している。

3 参考

(1) 追跡評価の基準（マニュアルより抜粋）

【評価項目・視点】

①課題解決のアウトプットの目標達成度（成果移転の目標達成度）

課題解決のアウトプットの目標達成度を、研究計画書作成段階での目標と実施状況から評価する。

③アウトカム（波及効果）

追跡評価時点におけるアウトカムの有無を評価する。

【評価の方法】

各センターが、課題解決のアウトプットの目標達成度について自己評価するとともに、今後の研究開発・技術支援に反映すべき点等について自己検証を行う。

さらに、総研運営会議において、センターの自己評価・検証を基に、その後の総研の研究開発・技術支援に反映すべき点を検証し、評価結果を承認する。